

議事録

会議名	刈谷知立環境組合中期計画ビジョン 第3回策定委員会	日時	令和7年1月23日(木) 午後2時00分から午後3時55分
		場所	刈谷知立環境組合管理棟2階 会議室
出席者	委員	中期計画ビジョン策定委員会委員 10名出席(代理出席者1名含む) / 10名	
	事務局(業務課)	業務課長はじめ7名出席	
	その他関係者	1名出席	
議 事			
1 あいさつ			
2 議 題			
(1) 基本理念・基本方針について			
事務局、資料により説明。			
【委員】	工場棟の浸水に対する安全性を示すのであれば、現状の建物部分が想定される最大浸水深の70cmより上であるため大丈夫であることだけを表記し、図面までは載せる必要はない。計量棟と粗大ごみ破碎施設は大丈夫か。		
【事務局】	工場棟以外の浸水深は工場棟とそこまで差はないが、粗大ごみ破碎施設は建設が古く、地盤高かさ上げができていないため、本計画の災害時対策で浸水対策についても検討する必要がある。		
【委員】	粗大ごみ破碎施設はそこまで被害はないかもしれないが、止水板等の対策も検討するとよい。以前、他の施設で台風により高潮が発生した際には、計量棟が全部浸水した。計量棟には「和算箱」というものがあり、和算箱がやられてしまうと機能不全になってしまう。新設工場の場合は、地盤高が高いところに配置するが、既設の場合でも防水仕様の機器に変更するだけ数十センチの浸水に効果があるので確認しておいた方がよいと思う。		
【委員長】	技術的な面は、専門的見地を有する委員であれば理解できるが、そうでない委員には理解しづらい部分もある。本委員会で指摘の上がった意見については、専門的知見を有する地域の関係者が理解していただけるよう、わかりやすく修正していただくのがよいと思う。		

(2) 基本方針ごとの施策・具体的取組について

ア 基本方針1「適切な施設運営による循環型社会の推進」
事務局、資料により説明。

(ア) 説明資料 P12 施策2の取組⑧ごみの資源化の推進（リサイクル品目・焼却灰再資源化）

【委員】 現状の10数%程度の灰の再資源化率を将来的に40%にする目標はよいが、焼却灰の再資源化を推進するには埋立処分よりも高い処分料が課題となる。目標値の達成に向けて費用面の裏付けをとるためにも、今後の財政計画で金額を明確にし、構成市への理解と了承を得る必要があるため、計画書には処分費用に関することも載せていくべきである。

【委員】 再資源化率の目標を達成するための具体的な試案にはどういったものがあるのか。

【事務局】 確かにお金がかかる話だが、リサイクル率においては、ごみ量が減少すれば、焼却灰も減るため、同じ予算額であっても焼却灰の搬出量に対する灰の再資源化率は上昇する。再資源化にあたっては、災害時における危機回避のための処分先確保も必要だが、処分価格の安価な事業者を検討する必要がある。リスク分散と搬出コストを上手に組み合わせ、予算をなるべく抑えることで両市に負担がかからない程度に再資源化率を増やしたい。また、両市のリサイクル率を上げるうえでは、焼却灰の再資源化は重要な案件である。ごみのリサイクルの施策を進めることが難しくても、焼却灰の再資源化により両市のリサイクル率を大幅に上げることができると、両市には予算措置を考えてほしい。

【委員】 将来的に焼却灰の再資源化の割合40%を目指すとしているが、埋立処分よりも費用のかかる再資源化を優先するために税金を投入するメリットは何があるのか。

【事務局】 焼却灰の処理単価は、埋立処分の場合1tあたり2万円、再資源化の場合1tあたり4～7万円と埋立処分の方が安価ではある。しかし、埋立処分先となる最終処分場自体の数が少なく、またその処分場で処分できる量にも限りがあり、処分先がひっ迫している状況である。再資源化の場合、焼却灰をアスファルトの路盤材や景観石等に変え、埋立処分をする灰が無くなるため、お金はかかるが、環境にやさしく、持続可能な取り組みになる焼却灰の再資源化を進めたいと考えている。

(イ) 説明資料 P13 施策3の取組⑨CO₂削減に資する機器導入の検討、⑩発電電力の有効利用の継続

【委員】 再生可能エネルギーを刈谷知立みらい電力株式会社に供給していると思うが、焼却するプラスチック類の量を増やすことなどで発電量を増やし、刈谷知立みらい電力株式会社以外にも電力を供給し、財源を確保することは可能か。

【事務局】 刈谷知立みらい電力株式会社への売電収入としては、現状で約2億円の歳入がある。プラスチック類については、今後、知立市でプラスチックの一括回収が始まるが、汚れたプラスチック類はクリーンセンターに搬入されるため、これまでより極端に減るとは考えておらず、今後も汚れたプラスチック類は焼却炉の助燃剤として活用していく。国全体では、プラスチック類ごみを削減する方向性になっているが、全てのプラスチック類ではなく、一部を回収するという話になっている。しかし、これまでと比較し、発電量は減少すると予想しているが、基幹的設備改良工事により機器の性能を向上することで発電効率を上げて現存の発電量を維持することで、刈谷知立みらい電力株式会社へ安定供給できるよう組合として努めていきたい。

【委員】 電力を増やすためにあえてプラスチック類を燃やすことは環境問題という側面から、やってはいけないことと捉えてよいか。

【委員】 発電量を増やすには、プラスチック類が多い方がよいが、CO₂も増えてしまう。現状は、プラスチック類を燃やさずに、リサイクルしていこうという今の世の中の流れがあるが、基幹的設備改良工事により運転に使用する電力を今よりも10%下げることができ、その分を刈谷知立みらい電力株式会社へ売電することができる。さらに、CO₂も削減することができるため、基幹的設備改良工事はとても大切になってくる。

【委員】 再生可能エネルギー由来の電力とは言いつつも実質は、市民が税金で買っている。燃やせば燃やすほど、CO₂は発生する。

【委員】 主婦の中でも意見が二分しており、燃やすためにプラスチック類を可燃ごみとして出さないといけないと思っている人たちが大多数である。今の話を聞くとリサイクルに出すことが、正解かと思うが、知らない人が多く、プラスチック類を燃やすのがよいと思っている。正しい知識を普及啓発してもらえるといいと思う。

【委員】 プラスチック類も助燃剤という役割もある一方で、CO₂削減の観点からはよくない等、いろいろな話がある。プラスチック類は種類が多く、どれもがリサイクルに適切ではないが、燃やすと排ガス規制に触れるものもある。エネルギー効率を高めることに取り組みながら、それに適したごみの分別を市民がどれだけできるかが課題となってくる。

- 【 委 員 】 P13の取組⑩の目標値である、可燃ごみ1tあたりの発電量461kwhが組合の目標だが、組合として何ができるのか。プラスチック類の分別も始まり、ごみ量が減ると、1tあたりの発電量も下がってくる。
- 【 事 務 局 】 効率の良い運転方法や基幹的設備改良工事の実施により、発電量を減らさないようにしていきたい。
- 【 委 員 】 基幹的設備改良工事を行わないと、発電量は上がってこないと思われる。蒸気タービン発電機の定格出力は6,400kwhであるが、これは1炉あたり97tの焼却能力がある3炉(291t)を同時に運転した場合の最大値であり、通常2炉運転であることを考慮すると燃費の悪い運転状況となっているため、基幹的設備改良工事の際は、将来のごみ量を推測し、最適な出力となるようメーカーと検討してほしい。新設のクリーンセンターでは、年間の運転計画から年間の発電量をできる限り多くできる蒸気タービン発電機の設定を実施しており、改造もできるはずなので、ぜひ検討してほしい。
- 【 委 員 長 】 大型の工事を実施できない場合でも一定量の発電量を確保していく必要があるので、蒸気タービン発電機を改良することで効率的に発電し、ごみが少なくなってもある一定量の発電量を確保することは大切と考える。

イ 基本方針2「地域社会への貢献と住民・構成市との連携の推進」
事務局、資料により説明。

(ア) 説明資料P18 施策6の取組⑰モニタリング制度の強化による管理水準の維持

- 【 委 員 】 「モニタリング制度」の「制度」とは何を指しているのか。
- 【 事 務 局 】 余熱ホールにおいて、組合からの要求水準に対して運営等を適切に実施できているかを指定管理者自身がモニタリングする「セルフモニタリング」及び、その結果を踏まえ、組合により要求水準を満たしているかを確認するモニタリングのことを指している。
- 【 委 員 】 標準的に作成してある自主点検表に基づく指定管理者による確認内容を、さらに組合で確認するということか。
- 【 事 務 局 】 「制度」という言葉が適切ではないのかもしれない。ここでは、モニタリングという仕組みのことを言い、発注者(組合)の目からきちんと行えているか確認し、指導してサービスを向上させようとするもの。
- 【 委 員 長 】 指定管理者のセルフモニタリングの結果を発注者が適宜点検、確認していることをモニタリングと言い、発注者からの提案に対して、自ら確認し、さらに発注者が確認することで、適切に維持する内容となる。

(イ) 説明資料P18 施策6の取組⑱リサイクルプラザのPRによる利用促進

- 【 委 員 】 今後の利用促進を図るにあたって、市民からの意見を取り入れるなど柔軟な対応が求められる。この会議でも話題になったが、市民が参画できる会議があれば、若い人たちがアクセスしやすい方法や年齢層や地域性を考慮する等の検討ができ、利用促進の工夫ができるところだと思うため、こういった意見を積極的に反映できるようにしてほしい。
- 【 委 員 】 リサイクルプラザは刈谷市内に2店舗あるが、刈谷知立環境組合ではリサイクルプラザのホームページやQRコードでの簡単なアクセス方法などを作成してもらい、感謝している。これを機に、みなさんにより認知してほしい。
- 【 委 員 】 認知することは大事だが、ここでいうホームページやSNS等の広報は一般論で、どこでも同様に実施している。
- 【 事 務 局 】 世代ごとに、情報の受け止め方は異なると考えている。例えば、年齢層が高い場合は、市民だより等の広報媒体が効果があると感じている。また当組合では、LINEの配信を積極的に進めており、若い世代に受け止められやすいと感じている。両方を並行して行っていないと難しいと感じている。実際に、再生補修家具等の品目を増やし、若い人たちが利用するようになった話を聞いているので、来訪した際に、直接意見や感じたことを聞くことで、広報周知の方法を探っていきたい。
- 【 委 員 長 】 多くの人により関心を持ってもらい、自由にいろいろ出し合える機会を企画したり、場所を提供する等、何か設定する企画を創出する方向でぜひ検討してほしい。

ウ 基本方針3「効率的な組合運営の推進」
事務局、資料により説明。
意見はなし。

(3) 財政について

事務局、資料により説明。

- 【 委 員 】 その他の歳入歳出がほぼ横ばいとあるが、焼却灰の再資源化率40%を目標とする場合、横ばいにはならないと考えられるので、再資源化に係る費用を織り込んだ方がよいと思う。
- 【 委 員 】 令和17年度までの計画が示されているが、来年になると変更になることも考えられるので、今考えている財政計画を、今後社会情勢に合わせて修正していくことも見込まれると思う。両市との関係の中で協議の在り方を今以上にしっかりと行っていかないと厳しくなることもあると思った。
- 【 事 務 局 】 両市に財源を依存している一部事務組合であるため、安全・安定・安心の運営していくためには、基幹的設備改良工事や大規模改造工事は、我々にとっても市民にとっても必要なため、計画的に実施していかないといけない。物価上昇もあり、大きく変わることもあられると思われるが、組合としてここで多額の予算が必要であることを記させてほしい。
- 【 委 員 長 】 設備の維持管理の施策には、財政上、厳しくても実施していく必要があることを両市に理解してもらい、早くから多くの市民に後押ししてもらえることが一番大事であると思った。厳しくなっていく見通しが考えられるが、両市の財政部局とより綿密に情報共有し、協議の場を重ねていってほしいと思っている。
- 【 委 員 】 より多くの人たちに予算が必要であることを周知し、最終的に両市長の了承を得ることができればと思う。

(4) その他

ア 参考資料 P5 図-9 ワンストップ受付（導入を検討）

- 【 委 員 】 ワンストップ受付について、渋滞が軽減される方法と思うが、ごみが刈谷市・知立市どちらからの搬入かをどのように判別し、計量を行っているのか。
- 【 事 務 局 】 計量棟（受付）で両市のどちらから搬入かを確認し、可燃ごみまたは粗大ごみの搬入量の多い方の計量カードを渡しており、可燃ごみと粗大ごみを混載している場合は、量の多い方で計量している。
- 【 委 員 】 可燃ごみと粗大ごみの区別はできないということか。
- 【 委 員 】 そういうところに改良の余地があり、受付をスムーズに行える工夫を考えるとと思う。表示やルートの案内等、受付前に事前に電光掲示板に情報を表示することもいいと思う。
- 【 委 員 】 市民による個人搬入者もショートカットできるようにするとよいのでは。市民による個人搬入の車両が多く、計量棟（受付）で渋滞しているため、パッカー車と個人搬入車両の動線を分けた方がよい。新設しているクリーンセンターでは、動線を分けている。
- 【 事 務 局 】 ゴールデンウィークや年末年始等の繁忙期には、混載の場合は、計量パスして通している。可燃ごみのみの場合は、計量棟（受付）へ案内して対応している。
- 【 委 員 】 （計量パスを実施した場合）どのようにして重量を把握しているのか。
- 【 事 務 局 】 重量は計量せずにこれまでの平均値から推計した数値を用いている。できる限り、正門前の近くの交差点前まで渋滞しないように努めている。また、パッカー車については、車体重量を把握しているため、行きは1回計量のみで、帰りは計量していない。
- 【 委 員 】 1回計量から2回計量にすることで、搬入するごみ量が数%減少した事例がある。
- 【 事 務 局 】 申告制だが、定期的にパッカー車の重量の登録情報を更新している。
- 【 委 員 】 燃料の残量や運転手の体重でも変化があり、2回計量にすると正確になる。
- 【 委 員 】 設備を変更するにあたり、財政に影響を及ぼす内容もあるので、いろいろな考えをもってほしい。

イ 年末年始の繁忙期における PitchFM による広報

- 【 委 員 】 年末年始にクリーンセンターの混雑状況を何度も PitchFM が流しており、とても良い宣伝と思った。
- 【 事 務 局 】 繁忙期には、株式会社キャッチネットワークのホームページに繁忙期に関する情報を掲載してもらっている。
- 【 委 員 】 その中でライブカメラ配信の存在を知り、とてもいいことだと思ったが、いつから配信しているのか。
- 【 事 務 局 】 令和5年1月から施設正門のライブカメラによるリアルタイム配信を開始した。混雑状況をより多くの人たちに見てもらえるよう、さらにPRしていく。最近の話なので、PR不足の一面もあるが、電話等で問い合わせがあった際には、ライブカメラをご覧いただくよう宣伝している。

【委員長】 株式会社キャッチネットワークが放映している、川の水位のリアルタイム配信等もあり、同様に当たり前のように見るようになれば、クリーンセンターへ問い合わせする必要もなくなると思う。

閉会